

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 tomoni文化振興事業補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局文化創造課文化振興係 電話番号：058-272-1111 (内3121)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,000 千円 (前年度予算額：8,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	4,000	0	0	0	0	0	0	4,000
要求額	8,000	4,000	0	0	0	0	0	0	4,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

平成27年9月にリニューアルオープンした「ぎふ清流文化プラザ」では、基本コンセプトの1つに「障がい者の文化芸術活動の拠点」を目指しており、(公財)岐阜県教育文化財団が事業を展開している。

当施設を拠点に実施される、障がいの有無に関わらず県民誰もが「ともに」文化芸術活動を行う「tomoniプロジェクト」の理念を継承し、SDGsの視点やDXの推進を含めて、地域に根差した共生社会の実現を目指す。

(2) 事業内容

ぎふ清流文化プラザにおいて、基本コンセプト「障がい者の文化芸術活動の拠点」に基づく文化振興事業を実施するとともに、芸術文化を通じた共生社会推進事業を実施する。

① ギャラリー等活用事業

ぎふ清流文化プラザの文化芸術県民ギャラリー等を活用し、障がいのある作家の作品展を開催する。

② 作品二次利用支援事業

障がいの有無に関わらず、幅広い県民を対象に、イベント開催時に専用ブースを設置する等、障がい者芸術に関する具体的な活動内容を紹介する。また、ぎふ清流文化プラザのtomoniカフェの他、作品の利活用に関心のある民間企業等と連携し、作品の二次利用を実践紹介する事業を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県の文化振興を図るうえで重要な事業であり、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	8,000	tomoni文化振興事業
合計	8,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ①「清流の国ぎふ」創生総合戦略
 - ・障がいのある人もない人も共に活躍できる社会の確立
 - ・「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承
- ②第4期岐阜県障がい者総合支援プラン
 - ・障がい者の芸術文化活動の充実

(2) 事業主体及びその妥当性

本補助金を受けて、(公財)岐阜県教育文化財団が事業を実施する。

(公財)岐阜県教育文化財団は、人材の養成や県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動している財団であり、ぎふ清流文化プラザの指定管理者として、同施設のコンセプトに沿った事業を展開しており、事業主体として妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	tomoni文化振興事業補助金
補助事業者(団体)	(公財)岐阜県教育文化財団 (理由) 当該財団は、人材の養成や県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動している財団であり、事業主体として妥当である。
補助事業の概要	(目的) 県民(特に障がい者)の文化活動への参加及び創造を促進し、地域に根差した共生社会の実現を目指す。 (内容) 共生社会を推進する文化振興事業の開催
補助率・補助単価等	その他(全額県負担) (内容) 県10/10 (理由) 県の文化振興の主要事業として実施するものであり、全額県負担とする。
補助効果	事業により、県の芸術文化の発展・継続及び共生社会の実現が見込める。
終期の設定	終期令和6年度 (理由) 「清流の国ぎふ」文化祭2024の開催年であるため。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

ぎふ清流文化プラザを、障がい者の方々の活動及び作品の発表等の場として活用し、また、県民が障がい者芸術に触れる場とすることで、文化活動を行う障がい者の増加を目指すとともに、障がいの有無に関わらず、誰もが芸術を通して表現する自由と楽しみを共有できる地域に根差した共生社会を実現する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前(R3)	R4年度実績	R5年度目標	R6年度目標	終期目標(R6)	
					達成率	
① ギャラリー企画事業の満足度	—	100%	90%	90%	/	—%

補助金交付実績 (単位:千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	/	/	7,295

(これまでの取組内容と成果)

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> TASCぎふコラボ展vol.8 夢かなう～始まりの1ページ～ tomoniワークショップNEST ブラインド・クリエイション作品展 チャレンジ企画展① 新生クリパラボ～創造力の集結～ チャレンジ企画展② ハロー！森田尚吾
	指標① 目標：__90%__ 実績：__100%__ 達成率：__111%__
令和5年度	令和7年度当初予算にて追加
	指標① 目標：__90%__ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	本事業は、障がい者の作品を広く県民に発信する場を創出するとともに、作品の二次利用を推進し、日常の生活に作品に触れる機会を創出し、県内の文化振興及び共生社会の実現につながることから必要性は極めて高く、障がいのある作家の作品二次利用に関する相談も増加している。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 3	ギャラリー企画事業での来場者の満足度は高く、障がい者の作品を広く県民に発信する機会として有効であるといえる。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	事業の手法について、随時検証しながら実施しており効率化は図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 県民(特に障がい者)が当事業に参加する機会を創出するため、事業の手法を随時検証しながら進める必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県民(特に障がい者)のニーズを把握し、事業の手法を検討しながら展開していく。
--